

U.S. Indicators

発表日: 2020年5月15日(金)

米国失業者の増加ペースは5月に鈍化も高水準継続

～ロックダウンの段階的な解除で労働市場の悪化ペースは鈍化傾向へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経を済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 03-5221-5001)

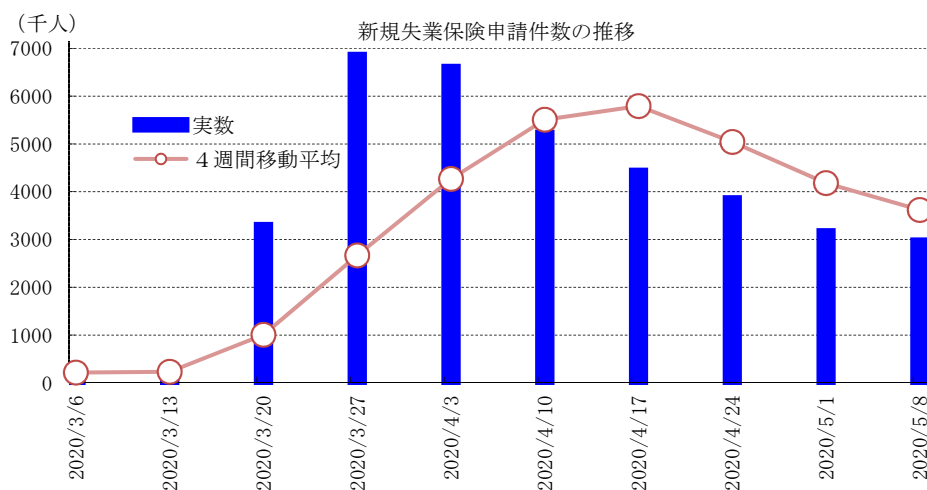
米国では、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため3月中旬以降に実施されたロックダウンや、外出制限、イベントの中止、店舗の休業、工場の操業停止による経済活動の一部休止を背景に、労働市場は過去に例のないペースで悪化した。米政府・議会が3月以降経済基盤や雇用維持のため3兆ドル規模の支援策を実施したこと等で、企業倒産は抑えられているが、先行き不透明感が強いなか、企業はレイオフを大規模に行っている。多くの州でロックダウンを部分的に解除し始めていることから、労働市場の悪化度合いは弱まっていくが、感染拡大の第2波への警戒から改善に転じるまでには時間が必要。

新型コロナウイルスの感染拡大を抑えるための経済活動の大幅な制限によって5月9日までの1週間の米新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、298万1,000件(前週317万6,000件)と8週連続で高水準となった。前週比では19.5万件減少。直近8週間の申請件数の合計は3,649.2万件と労働力人口の23.3%に達した。より変動の少ない4週移動平均(季節調整済み)は、前週比56.4万件減少したが、361万6,500件と高い水準。同統計の公表後に、コネチカット州は新規失業保険申請件数の報告ミス認め、当初報告した29万8,680件(前週比+26万2,542件)から2万9,846件への訂正を発表した。ただ、これを考慮しても、労働市場の悪化の程度に対する見方を変えるものではない。米国の失業者の増加ペースは鈍化しているが、高水準で増加を続けている。

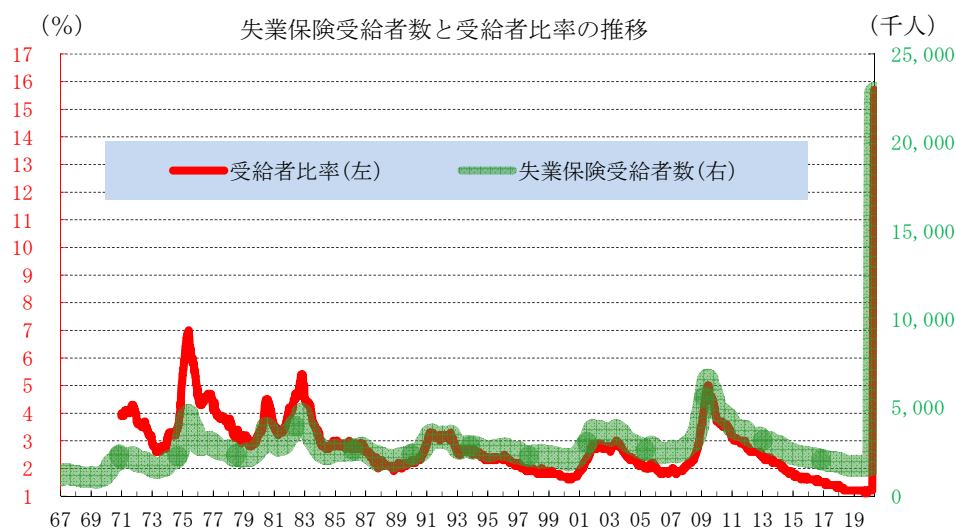
5月2日までの1週間の失業保険継続受給者数(新規失業保険申請件数より公表が1週間遅い)は前週比456万件急増し、2,283万3,000件と6週連続で過去最多となった。また、同週の失業保険受給者比率は15.7%(前週の15.4%)と過去最悪の更新を続けており、5月に入っても失業率が4月の14.7%(同統計作成以降で最も赤い水準)からさらに悪化していることを示している。

州別の新規失業保険件数では、新型コロナウイルスの急激な感染拡大を受け、これを抑えるために実施された外出制限、イベントの中止などの影響によって、多くの州でレイオフの動きが広がったが、外出制限導入の時期や人口の違いによって増加ペースなどに差がでていいる。5月9日に終わった週の州別の状況を見ると、ジョージアが24万1,387件(同+1万3,035件)と全米で最多。フロリダが22万1,905件(同+4万7,045件)、カリフォルニアが21万4,028件(前週比▲10万2,229件)、ニューヨークが20万375件(同+5,265件)と続いた。前週から最も増加した州は、フロリダで前週比+4万7,045件、次いでワシントン同+1万3,994件、ジョージア同1万3,035件。

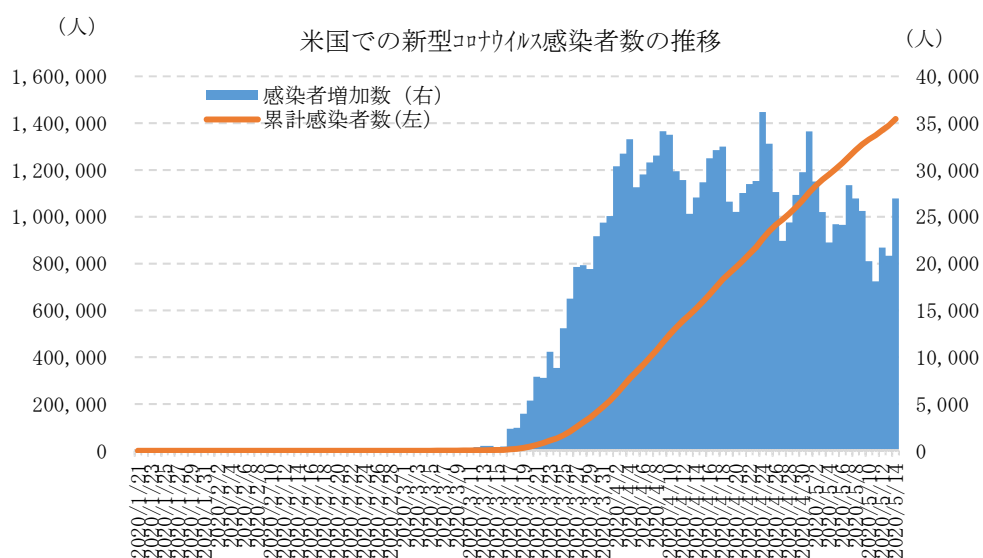
米国での5月14日時点の新型コロナウイルスの累積感染者数は143万人、死者数は8.5万人を超え、依然大幅な増加を続けている。感染拡大を防ぐためのロックダウンによる米経済活動の休止を背景に、4-6月期の実質GDP成長率は前期比年率▲40%程度に落ち込むと予想される。同時期の雇用者数は2.5千万人強減少し、失業率は約18%と大恐慌以来の水準に悪化すると見込まれる。



(出所) 米労働省



(出所) 米労働省



(出所) WHO等

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。